



第2回

“食物アレルギーは どうやって治っていくの?”

現在、三重病院ではいろいろな「臨床研究」をしています。医学は進歩しましたが、未解決の問題はまだ残されています。私たちも日頃、診療をさせていただく中で、これは何とかしなければ、と思うことがあるのですが、それを科学的な方法で解決の道を探ろうと「研究」をしています。今、取り組んでいる課題のなかから、今回は食物アレルギー研究の一つについてご紹介します。



三重病院にはたくさんの食物アレルギーの患者さんが通院されています。一般的に多くのお子さんの食物アレルギーは成長とともに治っていくと言われていますが、どの食べ物が、何歳くらいでどれくらい治っていくか、しっかり調査するのは難しいと言われています。当然ですが、皆さん、治ってしまうと病院にはもう来られないので、実態がわからないのです。例えば、昔はピーナッツアレルギーと診断されると一生食べられない、というイメージがあったかと思いますが、症状が軽いお子さんや治っていくお子さんがいることもわかってきました。でも、どのようなお子さんが治りやすいのかは、実はよくわかっていません。

三重病院にはたくさんの食物アレルギーの患者さんが通院されています。一般的に多くのお子さんの食物アレルギーは成長

そこで、三重病院で食物アレルギーの経口負荷試験を受けられたお子さんの保護者の方に追跡調査のお願いをしています。メールアドレスを登録していただき、1年後にこちらからアンケートのお願いメールをお送りします。そこに示されているアンケートサイトでそのときの食べ物の摂取状況を入力していただくことで、お子さんのアレルギーが治っているかどうかを集計することができます。

これらの情報が集まると、負荷試験の結果が、たとえ陽性であっても「1年後には何割くらいお子さんがこれくらい食べていますよ」ということをお伝えできるようになります。

また、メールアドレスを登録していただくことで、治っていないお子さんには、震災が起きたときなどに役立てていただけます。こちらからメールをお送りしますので、除去された食べ物が手に入らないなど何か困った状況にある方はメールにご返信ください。アレルギー対応食の入手先などの情報をお知らせします。

このような研究を通して、診療レベルもアップしていきたいと思っていますので、皆様のご協力をぜひお願いいたします。

(アレルギー疾患治療開発研究室長 長尾 みづほ)

～重症心身障がい児者等支援者等育成研修を実施して～



講義場面

医療的ケアが必要な障がい児・者及びその家族が地域で安心して暮らしていくためには、地域の受入れ体制の強化、支援体制の構築が必要です。そのための1つとして、重症心身障がい児・者等支援者等育成研修を、12月11日と1月11日の2回、三重大学医学部附属病院小児トータルケアセンターと共催で行いました。参加者は58名で、相談支援専門員、相談支援員、医療ソーシャルワーカー、看護師、介護士、理学療法士、教諭、保育士など地域で支援している様々な職種の参加がありました。研修では、支援に必要な医療や福祉に関する内容を、講義だけでなく、吸引や経管栄養などの技術を見たり、施設の見学を取り入れました。今回の研修を通して、医療・福祉

それぞれの視点での課題の共有につながったと思います。今後も継続した研修を行い、医療的ケアが必要な障がい児・者及びその家族が地域で安心して暮らせるよう、地域の支援体制の構築、受入れ体制の強化の力になれるようにしていきたいと思っています。



保育士・児童指導員作成の 季節感あふれるスヌーズレン

(教育研修係長 沢口 夏季)



経管栄養の説明場面



修了式